学校支援計画を

振り返って

いました。 まして、大変ありがとうござ 隠岐教育事務所の重点施策等 にご理解とご協力をいただき 今年度も管内の各学校には

準備の最終段階に入った令和 的に実施され、 二年度。 コロナ禍で様々なこ 中学校も実施 Π

シップの下、 とに制限のあったこの一年で したが、校長先生のリーダー 各担当の先生方 でした。

隠

査結果と合わせて一年間を振 いた学校支援計画に関する調 きました。 との関わりを通して伝わって がなされていることが、学校 を中心として、 先日ご協力いただ 組織的な取組 小学校一校あたり約7.回

り返ります。 校の教育活動やOJTの充実 指導主事の支援は、各学 でした。

島根県教育庁 隠岐教育事務所

隠岐の島町港町塩口24 電話2-9772

た割合を見てみると、

担当者への支援

B 生徒指導 59 %

D 授業づくり 67 %

事による訪問を除いて、 教育に係る訪問・派遣指導主 初任研に係る訪問・特別支援

中学校 校あたり約1.6回 (前年度 約 5.1 回

前年度 約 1.8 回)

連絡をすると、

を得ており、概ね学校の期待 どの支援に対しても「十分で に応えることができました。 したか。」という質問に対し、 に生かすことができるもので きた」「できた」という評価 「十分できた」と回答のあっ

A 学力育成 92 %

小学校学習指導要領が全面

С 特別支援 65 %

学校・教育団体等への支援

また、今年度の訪問回数は、

に

すぐに調整

かった。」 し、

た。 をもらいながら、先生方が もらえた。今後もサポー 貴重なアドバイスを豊富に 充実に生かすことができ 生徒指導、 「常に学校現場に寄り添い、 「新しい情報の提供により、 特別支援教育の

要望に応じた支援に努めて参 等のご意見もいただきまし ります。 ようにしたい。」 前向きに元気に進められる 今後も学校等の実態とご

いて 【来年度の学校支援計画につ

次の通りです。 方を検討しました。 ながら、よりよい支援のあり これまでのやり方を生かし 方向性は

①隠岐の子供達や先生のため

· 目 ということを大事に捉え、 にとって必要な力は何か 0 前の子供達、 先生方

かけつけてくれて心 強 こと。

助言により、 実させることができた。」 「本校の要望に合わせた指導 校内研究を充

者研修を実施すること。

③管内各町村教育委員会との

 \vdash

する「令和三年度学校支援計 年度も、 画要項」をご覧ください。 活用をお願いします。 詳しくは四月上旬にお届け

文責 森

社会教育を 振り返って

【ふるさと教育の推進】

総合的な学習の時間の系統

ました。 事が支援の依頼を受け関わり なるように、 性の見直しや探究的な学習に 児童・生徒が地域の 派遣社会教育主

とともに、

学校運営協議会と

学校の教育活動を支援する

取組を応援すること。 学校の、 主体的・自 主的な

②各校のOJTが機能するた

管内独自の担当者会や担当

に管理職との面談の時間を 大事にすること。 申請の目的や内容につい 意思疎通が図れるよう

連携をより一層深める 指導主事の積極的な 来

たり、

【子供の教育に関わる環境作 りの推進】

た。 6 行えるように支援を行いまし 入を検討している地区が (学校運営協議会制度) コミュニティ・ 地域学校協働活動の充実 実態にあった体制作りが 既存の組織を生かしなが スクール の導 あ

課題を捉え、 た提案ができるよう、 課題解決を目指 役場

きます。

家庭教育支援としての親学

の連携について支援をしてい

今後は、 関係部署等と連携を図り、 る体制作りについて支援して 実した学習が行えています。 いきます。 に実践でき、 提案した内容が実際 地域貢献ができ 充

が、

就学時健診時や中学校の

日入学時で実施することが

今後は、 前の段階

就

指導主事と連携しながらキャ りできるようにするために、 学習や生活への意欲へつなげ 各校の取組状況について情報 用の支援を行っていきます。 リア・パスポートの作成や活 収集を図ると共に、 ャリア・パスポートですが、 教育で得られた学びを新たな 収集不足でした。 今年度からスタートしたキ 将来の生き方を考えた 今後は情報 ふるさと

【地域を担う人づくりの推進】

援を行っていきます。

親学を実施できるよう支

学時健診時よりも 定着しています。

推進役と連携し、 が各地区で行われるように、 の人権意識の高揚を図る取組 いて考える学習会が実現しま れ、 職員の方が分館に呼びかけら の研修会に参加された公民館 企画され、支援しました。 作成)」を活用し、 プログラム 今後も各町村担当者や地域の した。このように、 人権について考える「人権 分館活動として人権につ (人権同和教育課 支援してい 地域住民 研修会が

文責 吉山) きます。

